

△印はつぎ返し

わが袖は潮平に見えぬ

沖の石の人を知らぬ

かわく間もな

わたしの袖は、潮が引いたときも水面に見えない沖にある

あの石のように人は知らないでしょうが、

(恋のために流す涙で) 乾くひまさえありません。

(百人一首 九二番 二条院讃岐)

中一三三